

第2回懇話会（書面協議）意見・質問等一覧表

回答期間：令和3年9月29日（水）～10月13日（水）

資料 第3次沼津市子ども読書活動推進計画（案）について

1. 記述修正した意見・質問

NO	委員意見・質問等の要約 （ページは9/29に送付した計画（案））	事務局回答 （ページは10/28に送付した計画（案））
1	第3次沼津市子ども読書活動推進計画（第3章 施策の方向性）は、P6の計画の基本方針に沿った組み立ての方が良いのではないか。	P6 7計画の基本方針に対する施策が明確になるように、P17 第3章 施策の方向性の記述を、基本方針ごとに組み替えました。
2	家庭で本に触れる機会がなくても、必ずどこか本に出会えるように、本を手渡す人の質的・量的向上を目指して頂きたい。子どもを本好きにさせたいのならば、読書を楽しんでいる姿を見せるのが一番である。大人を巻き込んで、沼津市全体を本好きのまちにする、くらしい全世代を対象とした取り組みを考えてもいいのかもしれない。	P17 説明文の中で、子どもが活動する場のどこかで本に触れる機会づくりや、大人自身が本を好きになることの大切さを記載しました。
3	P4、P5にある（1）情報通信手段の普及、多様化、（2）読書離れのアンケート調査は、題名に「沼津市の児童・生徒の」が入るほうがわかりやすいと思う。P5の初めに全国の児童生徒の数値が載っているので、とっさに迷う。	社会情勢の変化項目のため、項目名に沼津市は記しませんでした。 なお、P4（1）、（2）の文中には、沼津市のアンケート結果がわかるように記載しています。
4	P5（3）SDGsの普及啓発の所、SDGsの17の目標の中でという文の最初、唐突感がある。この言葉自体が、一般市民は「聞いたことはあるが」で、詳しいところまでは分からないと思う。SDGsを入れる必要があるならば説明を入れたらどうか。	P5 冒頭にSDGsについての説明文を入れました。
5	P6 読書バリアフリー法の施行に関し、沼津市立図書館として計画、または将来考えていることはありますか。	点字図書や大活字本等、障害者のための資料収集のソフト面は引き続き実施し、令和3年1月に開館したぬまづ電子図書館では、P22掲載の、音声読み上げ機能や、文字拡大機能のある電子書籍を充実させていきたいと考えています。また、視覚障害者等の団体と連携を深め、より利用しやすい施策を行っていきたいと考えています。今年度は、ぬまづ電子図書館の点字パンフレットを作成し、視覚障害者への利用説明を行っています。
6	インターネットやゲームなど、楽しいものに囲まれている子どもが、それでもあえて本を読むとすれば、それは「心が豊かになるから」でも「生きる力を育てるから」でもなく、「楽しいから」である。自分にとって良いことと分かっている、楽しくなければ長続きはしない。そのため、この計画を実行する際には「『読書は楽しい』ということを子どもに伝える」という大きな目標を念頭に置くことが大切である。	P6 計画の目的の記述の中に、読書の楽しさを子どもたちに伝える取り組みをしていく旨を記載しました。
7	P6 計画の基本方針の中の、環境の整備・充実について、ヤングアダルトのコーナーの拡大に期待する。	P21 個別施策「市立図書館の青少年に向けた取り組みの充実」を新たな項目として設けました。
8	P18 おはなし会、読み聞かせ等の実施表記として、「学校・保育所・幼稚園」となっているが、他が「幼稚園・保育所（園）」なので統一したらどうか。	本計画中、「幼稚園・保育所等」と統一表記にしました。
9	P12 市立図書館における読書活動の4行目、「託児を実施しました。」の箇所「託児を実施し、保護者が参加しやすくなる環境づくりに努めました。」に変えたらどうか。「託児を実施」だけでは寂しい文章だと思う。	P12 記述を修正しました。
10	P13 コロナ禍で休止していた図書館のフェスティバルの再開を希望する。	昨年度から、おはなしフェスティバルは休止していますが、代わりに、絵本の紹介、工作、手遊びなどを動画配信するクリスマスフェスティバルを開催しています。
11	P19 地区センター図書室の活用に記載されているが、地区センター図書室の本をより充実させてほしい。市立図書館から遠い地区ほどより利用させたい。そのため蔵書数や種類の増加を期待している。	P24 個別施策「地区センター図書室の充実と利用促進」中の取り組みとして実施しています。現在、新規購入だけでなく蔵書を定期的に巡回するなどの方法で、配架本が循環するようにしています。

12	図書館では1月から電子書籍の貸出しサービスが始まったが、利用者はどのくらいいるのか。また、読書活動の推進に効果はあったのか。	ぬまづ電子図書館は1月29日の開館以来、10月末まで（約9か月間）の貸出点数は17,101点です。図書館閉館時間後の夜の時間利用が多いため、来館が困難な方の読書推進に一定の効果があったと考えます。また、9月、10月は学校の課題に出されたこともあり、小学生の利用が急増しています。
13	司書教諭、学校司書、図書館の担当職員、市内の読み聞かせボランティアの人たち、幼稚園・保育園での担当者など、読書に関係している人たちの、実務レベルでの情報交換会が必要に思う。	P23 説明文最後の段落に記載しました。 なお、情報交換会の方法は、多くの業務の方が対象となり、通常業務もあることから、同時期に一同に集まることは難しいため、まずはアンケート等を活用し、今後、web活用などで情報を共有していきたいと考えています。

2. 施策に関する新たな提案

NO	委員意見・質問等の要約 (ページは9/29に送付した計画(案))	事務局回答 (ページは10/28に送付した計画(案))
1	P8 幼少期に本の楽しみを知った子は、習慣として「本を読む」行為が継続すると思うので、ブックスタート・ブックステップ・ブックフォローなどの他にも、例えば10才の誕生日まで本を1冊送るなど、もう一段階プラスαのフォローが欲しい。	P17 個別施策「家庭での読書習慣付けへの理解促進」の中の取り組みとして、今後の参考とさせていただきます。
2	小学生のクロームブックを利用して、音読を一斉にする会など、何か楽しい試みをして面白いと思う。	P20 個別施策「ICT活用教育における読書推進」の中の取り組みとして、今後の参考とさせていただきます。
3	〇〇小学校では先日、「保護者が子どもの頃読んだ本」というアンケートに基づいて人気ランキングが発表され、子供が興味を持って質問をしていた。世代間交流のきっかけや、例えば「アメリカの10歳がハマっているシリーズ」などを紹介するのも良いのではないか。	P20 個別施策「読書推進に向けた学校内の推進体制の強化」と「学校図書館の魅力の向上と効果的な選書の推進」の中の取り組みとして、今後の参考とさせていただきます。
4	各学校のすべての教師から、私の1冊を推薦文を含めて提出してもらい、すべての学校、地区センターなどに掲示するというのはどうだろうか。(先生たちの負担にならないよう、一斉に発表する必要はないと思う。)	
5	図書館を中心として、さまざまな団体が連携してひとつのイベントを行うなど、面白い取り組みも出来るかもしれない。具体的には、連絡会を作る、SNSの掲示板やトークルームを活用するなど、まずは無理のない形で始められると良いと思う。	P24 個別施策「市立図書館におけるボランティアの育成と支援」に記載の、まちづくり活動や、民間の本に関わる活動と連携した子どもの読書活動の実施の中の取り組みとして、今後の参考にさせていただきます。
6	特に幼少期の親は、情報を積極的に自ら集める人とそうでない人(情報弱者)の2極化がみられるので、誰もが検診などで行く病院、スーパーのおむつ替えコーナーなどにも、絵本とふれあえるイベント(図書館、支援センターの読み聞かせなど)の情報提供をしてみてもいいのではないか。Proud Numazu KosodateのLINE配信に情報を載せるのもいいと思う。	
7	P13 市内在住の小中学生に希望者を募り、アイボランティア体験をしてもらうのはどうか。本を読める喜びを再認識することにもつながると考える。	P23 説明文の最後の段落にある「新たな担い手づくり」の中の取り組みとして、今後の参考とさせていただきます。
8	P26 図書ボランティアは、今後の育成を考えると子どもの身近なお手本である高校生を活用するのも良いのではないか。将来、子どもに関わる仕事に就きたいと考えている児童生徒にとっても、読み聞かせをしたり、子どもの本(選書)のアドバイスをするのはとても良い経験になると思う。そのようなボランティア育成、支援をすることで、今後の発展につながると思う。	
9	巡回バスの時間帯や回数の工夫をして欲しい。(平日昼間だけでなく休日や夕方など)	巡回バスは1台で、高齢者福祉施設、自治会公会堂等を訪れる定期スケジュールが組まれているため、直ちに訪問地を変更することは難しい状況ですが、今後、検討していきたいと考えています。

3. その他意見

1	全体として、「第2次読書活動推進計画」に比べ、内容が精査され、文字の行間も空けてあるため、読みやすく、分かりやすい構成になっている。
2	子どもの読書を取り巻く社会情勢について触れているのはとても重要で、意味のあることだと思う。小中学校生徒に一人一台端末が配備され、ICTを活用した学習が当たり前となった現在、子どもの読書環境にも大きく変化している。生徒の読書離れをくい止める取り組みをしていく必要性を感じる。学校を始め、家庭・地域・図書館と連携して、子どもたちが本に触れるきっかけづくりをしていきたい。魅力ある本との出会いをきっかけに、読書好きの子どもが増えてくれることを願う。
3	P15 アンケート結果から見た現状と課題の所で、インターネットを使った読書は高校生の割合が高いので、電子書籍化は高校生の読書活動に前向きな影響を与えるのではないか。